

2026年9月18日
六甲バター株式会社

【2026 年 12 月期第 2 四半期(中間期)決算説明会 質疑応答】

実施日:2026 年 9 月 11 日

説明者:代表取締役社長兼 CEO 塚本浩康

上席執行役員活性本部長 丸山泰次

主な質疑応答内容

(全ての質疑応答の内容を記録したものではなく、ご理解いただきやすくするために一部編集を行っております)

Q1:足許の原材料高や円安を受けて 8 月に通期業績予想の下方修正を発表されていますが、今後の収益環境をどのようにみていますか。また、さらなる価格改定は検討されないのでしょうか。

A1:原材料高、特に中東情勢悪化を背景とする包材価格高騰の影響は当面続くとみています。また、為替についても引続き予断を許さない状況とみており、9 月よりチーズデザート等一部製品について価格改定に踏み切っておりますが、今後の市場・相場動向次第では追加の価格改定も検討せざるを得ないと考えており、現在社内で検討を進めております。

Q2:7 月に発生した熊本地震の影響について、もう少し補足いただけますでしょうか。

A2:連結子会社化したミツヤ GR の一つである株式会社千成堂の本社工場が熊本県の益城町にあり、今回の地震で工場の一部に物的被害が出て操業も停止しましたが、順次復旧作業が進み 8 月中旬より操業を再開しております。地震による損害額は、製品廃棄損および機械の修繕費用として約 10 百万円、この他に工場の耐震補強費用が追加でかかる可能性があります。当初想定したほどの被害はございませんでした。

Q3:当期に自社株買いを実施されましたが、自社株の活用方法をなにか検討されていますか。たとえば、今後中計で実施する各種施策への投下資金のために市場に再放出するような計画はありますか。

A3: 自社株の活用方法につきまして、各種施策への投下資金捻出のために市場へ再放出することも選択肢の一つとなりますが、現在の環境では必要資金は銀行で借りた方が割安、という調達コストの観点に加え、株式報酬制度への活用や消却等あらゆる可能性について併行して検討中であり、現時点では結論が出ておりません。方針が決まりましたら速やかにお知らせいたします。

Q4: セグメント別の利益実績について、ナッツ事業の計画比での落込みがチーズ事業に比べ大きい要因を教えてください。

A4: 包材価格高騰や円安の影響を受ける収益構造はナッツ事業もチーズ事業と同じですが、ナッツ事業におきましては PB 製品の比重が高く価格転嫁が遅れていることや、包材調達における価格交渉力がミツヤ GR では十分発揮できなかったことも影響して計画比の落込みが大きくなりました。

以 上